

令和元年度 施策評価シート

基本目標	I	「すみだ」らしさの息づくまちをつくる
政策	120	すみだの多彩な魅力を内外に発信し、成熟した国際観光都市をつくる
施策	123	訪れる人をやさしく迎える、おもてなしのまちをつくる
施策の目標	来街者をやさしく迎えることで、誰もが安全に、安心して区内回遊を楽しめる「おもてなし」のまちとなるとともに、区民と来街者のさまざまな交流が生まれる「国際観光都市」となっています。	

1 基本計画における成果指標の状況

指標名	外国人観光客の墨田区に対する来訪満足度									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	80.3%				83.0%					85.0%
実績										

指標名	まち歩きガイドツアー参加者数									
	基準年 (H28)	H29	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7
目標	4374				4600					4800
実績										

2 目標と現状(実績)についての分析及び総事業費推移

指標の推移・施策の課題や問題点について記述	総事業費推移 (千円)	
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会において、両国国技館がボクシングの競技会場となること等により、今後、来街者のさらなる増加が予想されることを踏まえ、歩行空間の整備や交通インフラの充実といったハード面のまちづくりのほか、世界中から本区を訪れるすべての人々を「おもてなしの心」で迎えられよう、「おもてなし」の担い手となる人材・団体の発掘や育成が求められる。また、「暮らし続けたいまち・働き続けたいまち・訪れたいまち」を実現するため、区民や区内事業者等とより一層連携を図り、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて気運を醸成していく必要がある。	H28	1,380
	H29	7,099
	H30	18,400

3 施策の評価及び判断理由

評価	理由
B	おもてなしの担い手となる語学ボランティア育成講座において、施策目標の達成に向けて一定の効果を上げている。平成31年度においては東京2020大会の開催前年ということもあり、世間的にも国内外への来訪者に関心を持つ人が増えると予想されるため、応募者数も増えると考えられる。

4 今後の施策の運営方針

評価結果	施策の戦略的方向性
○	(1) 優先的に資源投入を図る。
	(2) 現状維持とする。
	(3) 現状維持だが、より効率的な運営を図る。
	(4) 資源投入の縮小を図る。
【上記の判断理由】	
東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、「おもてなし」の担い手となる人材・団体の発掘や育成のほか、気運醸成事業についても積極的に取り組み、充実していく必要がある。	
【今後の具体的な方針】	
本区にゆかりのある漫画家によって描かれた、本区開催競技であるボクシングを題材にした漫画「あしたのジョー」を活用し、視覚的なPRを展開するとともに、区民が本PRIに触れる機会を増やすため、全庁、区内事業者等による活用を推進し、本区がボクシング競技会場地であることの周知や大会に向けた更なる気運醸成を図る。また、地域協議会を通じて、区民、区内事業者、関係団体等と密に連携し、「オールすみだ」で本区ならではの東京2020大会を推進する。	

5 この施策に係る事務事業（重要度・貢献度順）

番号	事務事業名	歳出 決算額 (千円)	人コスト (千円)	歳出 総額 (千円)	施策への関連性	目的に対する指標	直近の評価内容
						年度目標値	評価結果
						年度実績値	評価対象年度
1	オリンピック・パラリンピック 総合調整費	18,400	1,634	20,034		240	改善・見直し
						176	平成30年度
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							

令和元年度 事務事業評価シート

施 策	123	訪れる人をやさしく迎える、おもてなしのまちをつくる	部内優先順位
事業名	オリンピック・パラリンピック総合調整費		1
目 的	東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて区民等の気運醸成を図るとともに、競技大会終了後もレガシーとして持続可能な取組を各課と連携して展開する。		主管課・係(担当)
			オリンピック・パラリンピック準備室・ オリンピック・パラリンピック準備係 (関) 内線：5 4 6 9
対 象 者	区内に住む家族連れ、高齢者、若者など多くの区民の方、国内外から訪れる来訪者		
根拠法令 関連計画	なし		
実施基準	区独自基準	実施方法	一部委託 人員体制・委託先 常勤6人(そのほか組織員会派遣8人) 委託先:(公財)文化振興財団
事業内容	(1)気運醸成 ア ボクシングキャラクター活用事業(シテイドレッシング等) イ 競技体験(節目事業、すみだまつり・こどもまつり等でのボクシング競技普及やパラスポーツ体験によるイベント実施) (2)墨田区オリンピック・パラリンピック地域協議会の運営 (総会年:2回、各部会年:4回程度) (3)心のバリアフリー事業 (4)ボランティア関連事業 (独自ボランティアの設立、東京都共催事業「外国人おもてなし語学ボランティア育成講座」の実施) (5)聖火リレー等の都・組織委員会との連絡・調整		
経 過	開始年度	平成29年度	終了予定
	令和2年度		
議 会 質 問 の 状 況	[平成29年2定] 東京2020大会を見据えた「おもてなし」について マラソン誘致について [平成29年3定] 庁内の情報共有及び連携体制について [平成29年4定] 地域協議会の機動的に機能するためについて 聖火リレーの要望について 基本計画に掲げた"夢"実現プロジェクトの施策展開について [平成30年1定] 英語和話せるボランティア育成について オリンピック・ボクシング競技の除外報道について [平成30年2定] 小中学生の大会体験の機会について 区内事業者による「あしたのジョー」関連商品の販売について 「東京2020応援プログラム」について チケットの区民優先枠の検討について パブリック・ビューイングについて [平成30年3定] サマータイム問題と東京2020大会の開催時期について 日本ボクシング連盟の報道による影響について [平成30年4定] オリンピックレガシーについて		
	(他区の状況・年間スケジュール・関連部署等) ・聖火リレーや競技会場周辺の取組のほか、大会輸送、危機管理対応など庁内関連部署や組織委員会、東京都との適宜調整を行う。 ・ラグビーワールドカップ開催に伴いパブリックビューイングなどの気運醸成イベントを実施予定。		

予算・決算額推移(千円)		26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度
予算現額(事業費)				2,000	8,064	20,826	35,250
決算額(31年度は見込み)				1,380	7,099	18,450	35,250
財 源	国			0	0	0	0
	都			407	2,797	4,500	6,500
	その他			0	0	0	0
一般財源		0	0	973	4,302	13,950	28,750
執行率(%)		#DIV/0!	#DIV/0!	69.0%	88.0%	88.6%	100.0%

予算・決算の内訳（単位：千円）									
平成29年度（決算）			平成30年度（決算）			平成31年度（予算）			
節	概要	金額	節	概要	金額	節	概要	金額	
報償費	講演会講師謝礼	26	報償費	謝礼等	24	報償費	講師謝礼等	104	
旅費	管外旅費	38	旅費	管外旅費	54	旅費	管外旅費	100	
需用費	消耗品、コピー料金等	867	需用費	消耗品、コピー料金等	1,361	需用費	消耗品、コピー料金等	2,655	
役務費	郵便料金、保険料等	100	役務費	郵便料金、保険料等	288	役務費	郵便料金、保険料等	449	
委託料	イベント運営委託等	5,759	委託料	イベント運営委託等	16,580	委託料	イベント運営委託等	29,750	
工事請負	デジタルサイネージ防犯工事	40	使用料及び賃借料	会場使用料等	17	使用料及び賃借料	会場使用料等	692	
備品購入費	デジタルサイネージ購入費	268	負担金補助及び交付金	地域協議会活動補助	127	負担金補助及び交付金	地域協議会活動補助	1,500	
事業の 成 果	手 段 に 対 する 指 標 (活 動 指 標)	指 標	外国人おもてなし語学ボランティア育成講座実施回数				単 位	回	
		最終目標値	目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31		
		21回	令和2年度	目 標	3	5	6	7	
				実 績	3	5	6		
			R2	R3	R4	R5	R6	R7	
		目 標	0						
		実 績							
	指標の選定理由及び目標値の理由								
	ボランティア育成講座を的確に実施することにより、受講者のおもてなしの精神が醸成され、訪れる人をやさしく迎える風土が築かれるとともに、大会・都市ボランティアとして大会に関わる区民を増やすことができる。								
	目 的 に 対 する 指 標 (成 果 指 標)	指 標	外国人おもてなし語学ボランティア育成講座受講者数				単 位	人	
最終目標値		目標年度	基準年(H28)	H29	H30	H31			
840人		令和2年度	目 標	130	228	240	348		
			実 績	117	199	176			
		R2	R3	R4	R5	R6	R7		
	目 標	0							
	実 績								
指標の選定理由及び目標値の理由									
おもてなしのまちをつくるにあたっては、より多くの人に受講してもらおうことが望ましいため。									

評価結果	評価についての説明・今後の方向性等
改善・見直しのうえ継続	当初、令和2年度(2020年)まで実施を見込んでいたが、東京都より実施をしない方針が示されたこともあり、平成31年度(2019年)は東京2020大会の開催が迫り、申込者の増加も予想されることから本年度の実施回数を増やす。

課題・問題点
定員60名のおもてなしコースは、これまで語学力の基準を設けており、応募時に躊躇されることがあり定員割れをする回が出ていたが、本年度より応募条件が緩和され申込みをしやすくなった。また、定員36名のセットコースは、未だに定員を越える応募があり、受講を希望しても落選者が出てきてしまっている。実施回により申込者と当選者の不均衡をなくするため、落選者への次回応募期間の案内や年間スケジュールをホームページに掲載するなど、多くの受講希望者が参加できるように工夫を行う。